



むかし(旧暦が使われていたころ)は、7月から9月までが「秋」とされており、真ん中に当たる8月は、「仲秋」とよばれていました。この月の15日(十五夜)の夜に出る満月は、「仲秋の名月」と言われ、収穫を祝ってお祝いをし、月見をする風習がありました。これは、平安時代に中国から伝わり、各地に広まったそうです。

秋の収穫の始まるころとも重なり、お月見には、収穫祭の意味もこめられています。現在では、9月後半から10月初めごろになります。

今年の十五夜は、9月29日です。

あすなろ書房  
「和の行事絵本」より



敬老の日は昭和41年から国民の祝日(9月15日)に加えられた祝日です。現在では、9月の第三月曜日に設定されています。

「多年にわたって社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」だけでなく、全ての国民が高齢福祉について、関心と理解を深める日であると言えます。

園では、子どもたちに「おじいちゃん、おばあちゃんがいたから、お父さんお母さんが生まれ、みんながいるんだ」ということを伝えます。

日頃からお年寄りを尊敬し、大切にすることが育って欲しいと願っています。



### 小さな幸せ

8月5日の中国新聞に、廿日市市の七尾中学2年生、4人が踏切で転倒している高齢女性を近くにいた大人と連携して救助し、表彰されたという記事が載っていました。その日は小雨が降っており、踏切内で女性が倒れているのを発見し、一人は、踏切の非常ボタンを押し、もう一人は、通りがかりの人に119番を頼み、また別の一人は、濡れないように傘を差し出し、最後の一人は、近くのクリニックに助けを求め、看護師二人と職員一人が駆け付け、女性を踏切の外に運んだようです。こういう場面に出会うことはめったにないと思いますが、中学生たちの勇気ある行動が周りの大人たちとともに、一人の女性の命を救ったのです。中学生たちは、「助けたいの一心で、必死だった。」と振り返っていました。まさに今、自分が何をしなくてはいけないのかという状況判断をする力が育っている生徒さんたちです。状況判断だけではなく、困っている人がいたら、自分から声をかけていき思いやりの気持ちが育まれているのだと思いました。こういうことは教えられて育つ力ではなく、小さいころから、あそびを通して工夫したり、友だちと協力してあそびを広げたり、時にはけんかをして、仲直りをするために相手の気持ちを考えたりする中で育まれていく力です。すいこうでも楽しく日々を過ごしながら、そういう力をつけた子どもたちに育んでいきたいと思いました。

さて、8月14日15日16日はお盆休みのご協力、また登園されるお子さんには、手作りのお弁当を用意していただき、ありがとうございました。幼児さんは、通常土曜日に登園されるときは、お弁当を用意してもらっています。その時も朝から「今日はオムライスが入ってる」とか、「パパの作ったサンドイッチよ」と、とても得意そうに言い、お弁当の時間を楽しみにしています。今回は、乳児さんにもお弁当を用意していただきました。2歳児のNくんは、登園するや否や、そばにいる保育士にお弁当の袋を見せ、「ぶどう、ぶどう」と言っています。「デザートにぶどうが入っているんだね」というと、何度もうなずき、そっとお弁当を置いて、好きなあそびをはじめました。お弁当の時間になると、誰よりも先にお片づけをし、お弁当をもって座っていました。「手を洗いましたか？」と聞くと急いでお弁当を持って手を洗いに行っていました。大きなお口を開けておいしそうにおにぎりをほおばるNくん。1歳児のKくんも自分でお弁当の包みを開こうとしていました。お弁当に慣れている幼児クラスのお友だちも、みんな笑顔でおいしそうです。お迎

えの時、Nくんのお母さんにその話をすると、「包んだお弁当を見せてというので、見せると、ウイナーが入っていないというので、急いでウイナーを炒めて入れました。」と話されました。その光景が見えるようで、思わず笑ってしまいました。幼児クラスのお友だちもお弁当をつくる前の日は、「からあげ入れて」とか「デザートは、リンゴがいい」などと親子でいろいろな会話がなされているようです。

以前、「食べることは生きること」というテーマで、現在竹原市にあるイタリアンレストラン『ピストロ シン』のオーナーシェフ新田晋司氏のお話を聞く機会がありました。新田氏は、「食事作りと言うと、時間をかけて手作りをしないで。とか、トマトやキュウリなど自家栽培したり、いろいろな野菜を使わなくて。などと、自分でハードルを上げているのではない。仕事、家事、育児たくさんをこなすお母さん方、限られた時間の中でできることをすればいい。子どもに、誰かに喜んでもらおうという気持ちがあればいい。食べるということは、一番身近な小さな幸せです。」と、話されました。美味しいものを食べている時の表情は、みんな笑顔でみんな幸せそうです。こんな身近な幸せを感じる事が食べることの意味で、それを家族で共有することで、身近な小さな幸せは、大きな幸せになっていくのではないのでしょうか。また、野菜やお米を作っている人のことを思う事が大切とも話されました。お弁当を食べながら、「お父さんが作ってくれた」とか、「お母さんがたこさんウイナーよって言ったよ」と、嬉しそうに話しながら、作ってくれたお家の人を思って食べているのだと思います。そして作ってくださったおうちの方は「今頃食べるかな？」などと思いをはせておられたことでしょう。小さなお弁当を通して、離れていても親子の絆を感じさせてもらった3日間のお弁当でした。余談ですが、園庭で汗だくになって遊んでいる年少さんに、「暑いね。お茶をどうぞ」と渡すと、Hくんがごくごく飲んで、「おいしい」と、つぶやきました。幸せをかみしめた瞬間だったのでしょ。嬉しくなりました。

9月に入ると、運動会への取り組みも少しずつ増えてきますが、まだまだ残暑が厳しいところです。子どもたちの興味あることを中心に構成して、無理なく運動会を迎えたいと思いますので、体調の管理とともに「早寝早起き朝ごはん」へのご協力をよろしくお願いいたします。

園長 上原玲子

### 子育てメッセージ

子どもという  
新しい存在との  
出会いに感謝

産声を覚えていますか？  
初めて対面したときのことを  
覚えていますか？

子どもの出生からの日々…  
子どもの笑顔、寝顔は、心なやませしてくれる、まるで魔法の薬。  
どんなに忙しくても、  
どんなに苦しくても、  
その魔法の薬で何度、  
癒されたことでしょう。  
あなたに会えてほんとうによかった。  
ほんとうにありがとう。

(公社)全国私立保育連盟  
子育てメッセージ



すいこうは、大雨などによる土砂災害危険地域には、指定されていません。また耐震基準もクリアしていますが、それらの災害が起こった場合、道路が遮断されるなどして、保護者の方のお迎えが難しくなる場合を想定し、24時間以上園児をお預かりできるよう、防災倉庫に飲料水、食糧を始め、自家発電機などの生活用品を揃えています。そのような災害が起こらないよう祈るばかりですが、もし起こったら、どうするか、ご家族で話し合っておくといいですね。

